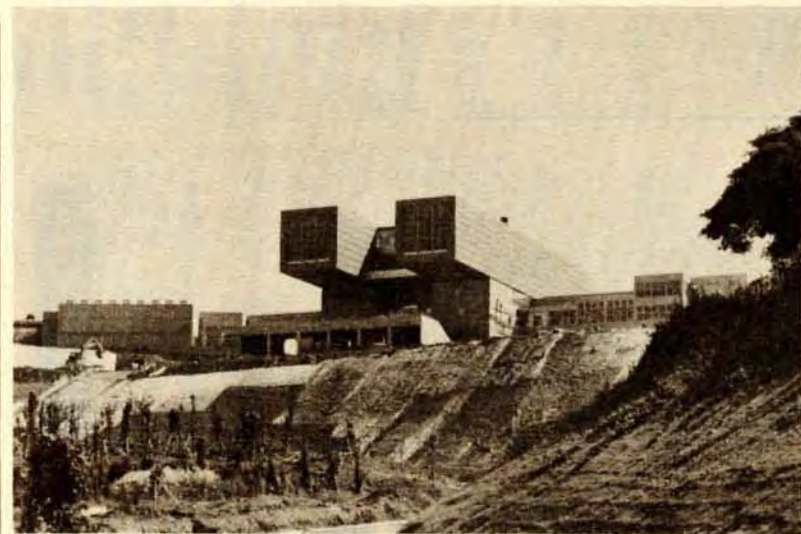


# 11月3日 いよいよオープン！ 北九州市立美術館



11月3日にオープン！ 戸畑区西鞘ヶ谷町21-1、882局7777

北九州市立美術館は、11月3日にオープンします。この美術館は大きく翼を広げた本体の上に、シルバークレーに輝く二本の筒が空に飛び出すように乗っています。建物自体が一個の美術作品です。敷地面積は、十平方メートル。建築延面積は約七千九百平方メートル。地上四階で地下二階、総工費は約十五億円です。

この新しい美術館は、文化の中央集中という現象に対し、地方文化の再発掘、再確認という作業を通してユニークな地方美術館になることをめざします。

そのために基本的な二つの方針を持っています。

まず、独自の誇りうる収蔵品を持つこと。西日本出身作家の作品を中心に、国内外の近代と現代美術を統一して集めます。中でも版

画や素描の収集に力をいれ、また九州を中心に優れた古美術品を集めます。

第二に、市民生活に密着した生きた美術館（リビング・ミュージアム）であること。誰もが気軽に集まって「美」を鑑賞し、創作できるように努めます。そのために館の収蔵品を中心にした常設展示のほかに、特別企画展示を行います。

また、館内にはライブラリー（図書室）やアトリエを備え、講座や講演会などの教育活動も実施します。さらに将来は、ボランティアが展示作品を解説します。

体の不自由な人のために、入館専用プザー、車イス、エレベーター、専用トイレなどの設備があります。



**利用案内**

＊観覧時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

＊休館日 11月3日（祝日）、12月29日（1月3日）

＊観覧料 大人 100円（八十円）、大高生七十円（五十円）、中小生四十円（二十円）。カッコ内は二十人以上の団体。（特別の展覧会は除く）

## 3階

▲常設展示室 第一と第二の二つの展示室があり、美術館のコレクション（収蔵品）を12月中旬から常時展示します。外から見た二本の筒の部分がこの展示室です。

展示室の採光は、自然採光を基本にしていますが、これに人工採光を加えて常に一定した明るさの中で作品の鑑賞ができるようになっています。

なお、四階は機械室となっており、館内の空調をここで調整しています。このほか防災設備も完備しています。

## 2階

▲ブラウジング・ルーム（閲覧室） 美術雑誌等をそろえており、くつろいだ雰囲気の中で読書ができるようになっています。

▲アート・ライブラリー

1（美術図書室） 古典調の家具が置かれ、しつとりと落ち着いた気分がひたれます。版画やデッサン、美術書などが収められており、特別鑑賞用の部屋です。

▲フィルム・ライブラリー（視聴覚室） 美術に関する16mmフィルムやスライドをそろえており、館内試写に応じます。

## 1階

▲エントランス・ホール（玄関広間） ヨリタリ産大理石を張りつめ、高い吹き抜けがあります。

▲ガイダンス・ルーム（解説室） 団体入場者に、鑑賞の前に展覧会の主旨や展示品の解説をします。

▲企画展示室 第一と第二の二つの展示室があり、館企画の展覧会や巡回展などを開きます。

## 周辺

▲美術の森公園 高見丘陵全体を公園にします。彫刻広場や屋外展示場、日本庭園などがあります。また、いろいろな憩いの施設もあり、車道とは完全に分離した遊歩道がめぐらされており、気ままな散歩が楽しめるようになっていきます。

## 地下1階

▲講堂 各種の講演会や映画会が行えるようにオーディオ装置が整っています。百人まで収容できます。

▲アトリエ 実技や美術史の講座が開けるように実技室、講義室、和室の三つに分かれています。

また、地下二階には、収蔵庫があります。

なお、八幡美術館八幡東区尾倉二丁目）は八幡市民会館の美術館として展覧会などに活用します。



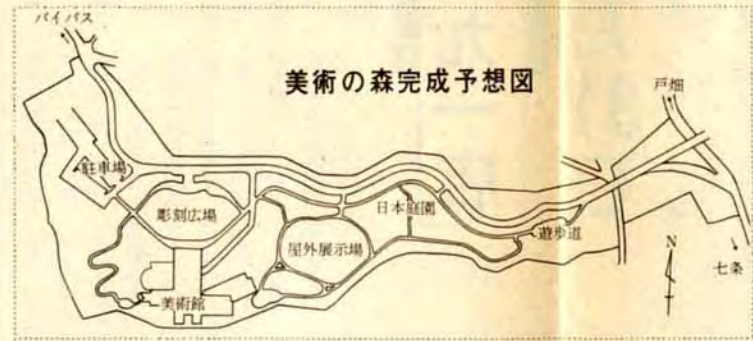
常設展示室。広さは1,060㎡



アート・ライブラリー（美術図書室）



企画展示室。広さは840㎡ エントランス・ホール



## 開館記念

### 中華人民共和国 漢唐壁画展



耕作・種まきの図。魏晉時代。嘉峪関魏晉墓壁画

11月3日～12月1日（無休）  
午前10時～午後6時

大人100円、大高生70円、中小生40円（二十人以上の団体は前売券、割引券は二割引き）  
前売券はプレイガイド各市民相談室、図書館などにあります。

北九州市立美術館は、開館記念行事として、11月3日から12月1日まで「中華人民共和国漢唐壁画展」を開きます。

この壁画展は、中国の特別の好意によるものです。作品は、中国の漢時代から唐時代（紀元前一八世紀）までの墳墓の壁画の模写百四十一点で、いずれもたいへん貴重なものです。甘肅、陝西、山西、河南、河北と内蒙古の五省一自治区から、新中国になって発掘されたものばかりで、中国でさえ公表されていないものもあります。

河南省洛陽市の前漢時代の墓の壁画「日月星辰の図」は、中国で発見された最も古い星辰の図です。同じ墓から発見された「宴の

図」は、素朴な粗い線で八人のいろいろな姿が生々しく表現されています。

河北省望都県の後漢時代の墓の壁画テーマは、宮庁でのさまざまな役職の人物であり、それに加えて鳥や獣や雲などが描かれています。これを見るに漢時代の民間画工の技巧が、写実的な面で相当高度に発達していたことがわかります。

河南省密県の後漢時代の墓の壁画に「相撲の図」があります。これは、中国で一番古い相撲の絵だそうです。中国古来の伝統的な競技に「角抵」があり、チョンマゲを結った筋肉隆々たる両力士の動きがよくとらえられています。

甘肅省嘉峪関の魏・晋時代の墓から発見された壁画は、だいたいの一個の碑（レンガ）に一幅の画が描かれています。中には、数個の碑にわたって描かれている場合もあります。その内容は、被葬者が生前に官職を昇進するありさまや宴会、農耕、牧畜に勤む姿などが描かれています。



扇を持つ宮女。唐時代。懿徳太子墓壁画

陕西省で唐時代の墓、淮安靖王墓、章懐太子墓、懿徳太子墓、永泰公主墓の壁画が発見されています。貴族の宮廷生活や官吏の制度などが描かれており、唐時代の文化、風俗を知ることができます。

章懐太子墓の「打球戯の図」は唐時代の貴族の間で盛んに行われた馬球戯（ポロ競技）を描いたものです。

懿徳太子墓の「扇を持つ宮女の図」は右図のとおりです。回扇（うちわ）は、唐時代に中国から日本に伝わったものですが、後の宋時代には日本から折られたみ式の扇が中国に伝わっています。

日本の高松塚古墳の壁画や伝統的な大和絵との関連を思わせる興味深い作品もあります。この壁画展は、中国と日本の古代絵画を知るうえで、きわめて貴重なもの

## ＊開館記念展への交通案内＊

- 臨時バス 壁画展の期間中、次の臨時バスが走ります。有料です。
- 【市営バス】 若松区役所前を午前9時40分始発、50分間隔で運行。
- 【西鉄バス】 小倉駅前を午前9時13分始発、45分間隔で運行
- 黒崎駅前を午前9時32分始発、35分間隔で運行
- 八幡駅前を午前9時20分始発、40分間隔で運行
- 八幡東区七条電停下車一徒歩20分。



